

女性が拓く未来のテクノロジー ～Women In Engineering 2012～ 開催報告
東京工業大学 時岡綾

2012年10月20日、IEEE JC WIEおよびICTMT研究推進委員会の共催により、「女性が拓く未来のテクノロジー Women In Engineering 2012」が機械振興会館(地下ホール)にて開催された。本イベントは内閣府男女共同参画局、日本MOT振興協会、日本経済新聞社、電子情報通信学会、情報処理学会および日本データベース学会にも後援として協力して頂き、約80名の参加者が集まる中、2つの基調講演と3つの技術講演が行われた。



当日のプログラムおよび講演内容は以下のとおりである。

http://www.ieee-jp.org/japancouncil/affinitygroup/WIE/contents/WIE2012_20121020_0904.pdf

司会：JC WIE 事務局長 矢野絵美

13:00- JC WIE 会長 橋本隆子

13:05- 挨拶 内閣府男女共同参画局長 佐村知子様

13:13- 挨拶 (独)日本学術振興会 審議役 梶山正司様

13:17- 挨拶 IEEE JC 会長/中央大学理工学部 教授 今井秀樹先生

13:20- 基調講演①

「グラスレス 3D レグザ商品化までの道のり」

福島理恵子 (東芝研究開発センター)

今まで福島さんが長く携わってこられた 3D-TV の紹介とその将来展開についてお話しされた。また、3D-TV に関わるようになったのは産休復帰後であり、多様な働き方を支援する制度も充実して利用しやすい環境だったことについても触れられた。質疑では、福島さんの研究の環境やこれからの仕事についての質問があり、最後「周囲の男性にも恵まれたが、女性も



さらに成長する環境を求めるのなら自分にブレーキをかけずにリスクをとる必要もある」という言葉を頂いた。

参考：<http://www.toshiba.co.jp/rdc/recruit/2009/fukushima.htm>

14:02-基調講演②

「ナノテクノロジーと機能性化粧品(アスタリフト)の開発」

田代朋子 (富士フイルム R&D 統轄本部)

FUJIFILM が写真のフィルム開発技術を応用して取り組み始めた機能性化



粧品のアスタリフトの開発について、会社はその分野に参入することになったきっかけについてお話いただいた。普通の化粧品メーカーとは異なる背景を持つからこそ新たな着眼点を持って化粧品分野に取り組んでいきたいということだった。また、女性であることは化粧品の開発ではとても強みとなっているそうである。

参考：<http://www.fujifilm.co.jp/rd/field/story/cosmetic/index.html>

15:00- 技術講演①

「人工衛星への宇宙ゴミ衝突検出システムの研究—安全な宇宙利用のために」

相馬央令子 (JAXA 宇宙科学研究所)

宇宙の研究者という道を選んだきっかけについて最初にお話頂いた。学生時



代から宇宙ゴミに関する研究を行いたいと考えており、現在では宇宙ゴミの衝突を検出システムの研究を行っている。質疑での研究の環境についての質問に対して、「チームは全員女性であり、女性だからこそ地味だがとても必要な研究に根気強く取り組めるのではないか」というお答えを頂いた。

参考：<http://mainichi.jp/opinion/news/20120915k0000m070118000c.html>

15:30- 技術講演②

「スピンによる磁気と熱のエネルギー変換機能を有する磁性機能材料の開発研究」

斎藤明子（東芝 研究開発センター）

冷蔵庫や空調など汎用冷凍機器で使われるフロンや代替フロンはオゾン層破



壊や地球温暖化に大きく貢献している。ご講演では、これらに代わる磁性体を用いる新しい原理の磁気冷凍技術の研究開発についてご紹介いただいた。将来的には、今以上に高効率かつ環境にやさしく安全な新しい冷凍技術の実現を目指している、とお話を締め括られた。

参考：http://www.jsps.go.jp/j-jisedai/data/green/GR104_outline.pdf

16:05- 技術講演③

「情報通信技術を用いた音楽療法」

小杉尚子（IEEE JC WIE 副会長/NTT コミュニケーション科学基礎研究所）
予想よりも早いスピードで患者数が増加している認知症に対する音楽療法の研究についてご紹介頂いた。認知症の患者の数は増える一方だが、薬は未だ開発されておらず、音楽療法も現在は科学的な根拠のないものとして扱われ



ている。そこで信頼性の高い効果評価を行い、音楽療法が日常生活にどのような効果をもたらすかということに科学的根拠を示すことが目標、というお話をされていた。現在はグループホームで実験を行っており、そこで使われる楽器や運動器具についてもご紹介いただいた。

参考：http://www.jsps.go.jp/j-jisedai/data/life/LR039_outline.pdf

16:33 閉会の挨拶 石川佳寿子 (IEEE JC WIE 副会長)

以上